

復刊のことば

二ヶ年の休刊は、本誌の長い歴史における遺憾なる間隙であつた。目の前に幼児を護る焦眉の急、將來のために幼児を正しく保育する緊要、それに與かる本誌の責務の緊急を痛感し、痛感しつゞげながら、遂に休刊の餘儀なきに至つたのであつた。その二ヶ年の前半は、いよゝゝ逼る必死の當時であり、後半は激動からの立ち上りと革新へと進出との、自奮自勵の今日である。本誌も亦、新たに立ち、舊くして新らしき、小なるが如くにして實は大いなる、その位置に復り附かなくてはならぬ。

しかも、本誌が己れを語る前に、先づ特記せずにはおられないことは、休刊の間、斷えず寄せられた好誼と激勵と、殊に、復刊の日を促さるゝ期待と信頼とに對する、同志誌友への深き感謝である。機會ある毎に見舞つて下さつた。常に待つてゐるよ待つてゐるよと言つて下さつた。それは、本誌をして、休刊によつて却つて自己の存在意識を強からしめた位であつた。本誌は、本來わが國の保育者諸君の知己を以て任じ、好友を以て自ら楽しんで來た。創刊明治三十四年一月、思へば、久しき知己であり好友である。微力何んのお役に立つたかを知らぬ。しかし、幼兒保育への一途の専念と、保育者諸君への純乎の親愛とについては、一日も自ら疑ふところがない。といふよりも、諸君の保育専念に伴なひ、親愛に浴しつゞけたといつた方がいかも知れない。復刊も亦その賜に他ならぬことを思ふ。感謝を以て舊知に會ひ、愛情を以て舊友に迎へられる復刊の本誌は、世の幸福者といはなければならぬ。

過去には追憶と舊足跡がある。今日には反省と新意氣があり、將來には希望と新發展がある。復刊は單なる繼續ではない。再生である。殊に今日のわが國において、事すべて新たなならざるはない。本誌も亦反省と新意氣となしに眞に再生し得ず、希望と新發展とを缺いで眞に復刊の實をなさない。わけても、過去を知らず、今日に新たに生き、將來に新たに展び開く幼兒達と共にあるものとして、本誌の復刊が、眞に新らしき再生でなければならぬことこそは、自ら警めて怠りなきを期してゐる。が、なんといつても、四十五年の舊い足跡には、歩き慣れた足どりと、舊い、従つてのろい步調とがぬけ切らないことを自らおそれる。願はくは、保育の志を同ふする新人新友、新風に乗つて集り來り携へ助け、颯爽たる快步と潑刺たるステップを以て本誌を導き、復刊をして眞に再生したり得しめられんことを。本誌のためといはず、わが國の幼兒保育のために、切に希ふて已まない。